（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス　ぱれっと城間			
○保護者評価実施期間	2025年3月3日		～	2025年3月28日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	5
○従業者評価実施期間	2025年3月3日		～	2025年3月28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年　5月15日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子行事や保護者面談等を定期的に開催している。	日々の療育プログラムを保護者に公開することで、普段の子どもたちの様子を親子で共有し、成長を確認し合える機会を設けている。	今後とも親同士のつながりを深める場を提供することで、支援の幅を広げていく。今後は、きょうだい児もより参加できるファミリーイベントを実施したり、地域との繋がりを深めていくことで、児童が安心しより豊かに成長できる場面を今後とも提供していきたい。
2	保育士が比率が高い。	子どもの発達段階に関する知識が豊富な職員が多く、一人ひとりに寄り添った、無理のない療育（個別課題）を取り組んでいる。朝のミーティングでは、職員間で振り返り行い、支援の方向性や児童に対応を常に確認している。	障がい福祉は、障害がいのある児童の支援が求められるため、療育的な視点や専門的な支援が十分に行き届かない可能性がある。子どもと保護者にとって安心感がある一方で、支援の専門性を広げるための工夫が必要となる。多業種を取り入れることで、より多角的な支援を行っていきたい。児童にとって「楽しい・安心した場所」の提供。職員にとっては「やりがい」に繋がるよう、環境を構築していく。
3	安心・安全場の提供	非常時の対応については各種マニュアルを設定し、訓練と改善を定期的に行っている。 児童の日々に体調・情緒の状況について保護者と連携し、その日の様子にあった支援を行っている。	職員があらゆる災害や危険な状況に対応できるよう備えるとともに、SNSを活用した定期的な情報発信を通じて保護者の理解と協力を促進し、より良い環境づくりを目指します。また、児童が自身の体調や気持ちに気づくことができるよう支援を行っていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園やこども園、他の子どもとの交流が少ない。	平日の午前中はこども園で集団生活をしている児童が多く、午後は個別課題を充実させているため。交流を目的とした園庭開放している保育園やこども園や公共施設など利用ができていない。	個々の個別活動が充実し、また定着していけば、次の段階として、土曜日にイベントを開催し地域のこどもや同年代の児童と交流する機会を設けていきたい。
2	保護者同士の交流の機会・きょうだいが参加できるイベントを開催しているが、参加状況にばらつきがある。	年間行事を立てて、事業所の取り組みや家族で楽しめるプログラムを企画・運営を行っているが、クラブ活動、お稽古事も通っている児童がいる。	保護者同士のつながりを深められ、子育てに関する悩みを気軽に相談できる場を設けていきたい。また、ファミリー向けのレクリエーションイベントを充実させることで、親子だけでなく、兄弟姉妹も楽しめる場を提供していきたい。
3	地域との関わり	イベントなどで近隣の事業所と関わる機会は設けているが、まだ十分ではない。順次、連携している機会を増やしていき、災害時の際に協力体制の構築を強化したい。	日頃から近隣との関わりなどを積極的に関われるように事業所で近隣の方を呼べるイベントなど開催を検討したい。地域との関わりを深めながら、万が一の災害発生時には、お互い協力し助け合える関係性を構築していきたい。